

一宮市  
博物館  
だより

No.40 2007.3



杉本健吉 五百羅漢 1944年



平成19年度企画展

# 杉本健吉——遺贈記念作品展

4月28日(土)～5月27日(日)

休館日 5月1日(火)・7日(月)・14日(月)・21日(月)

杉本健吉(1905—2004)は、明治38

年9月20日、名古屋市矢場町(現名古屋市中区栄)に生まれました。大正12年(1923)愛知県立工業学校図案科を卒業後に図案の仕事しながら絵を描きました。岸田

劉生、梅原龍三郎に傾倒し、昭和6年(1931)の国画会初入选以来毎年出品を続け、昭和18年(1943)に「佐分賞」を受賞し、画家として注目されるようになりました。

昭和15年(1940)に奈良へ訪れて以降、古都奈良を好んで描き、奈良で制作を続ける中で生み出された西洋と東洋の絵画技法を取り入れた墨彩画は、発表当時、文豪の志賀直哉から「新しい日本画が生まれた」と賞賛され、現在に至るまで特に高く評価されています。昭和17年(1942)第5回新

文展で特選を受賞、昭和22年(1947)には第1回中日文化賞を受賞し、昭和25年(1950)より吉川英治作の連載小説「新・平家物語」の挿絵を手掛け、全国的に人気を博しました。

その生涯の中で膨大な数の作品を残した杉本健吉は、発表後の挿絵であろうとも描き直しするほどで、挿絵やスケッチでも軽んじることなく、ひとつの作品として真剣に取り組みました。更に、常に新しいもの、より良いものを追求して挑戦しつづけ、精力的に制作しました。また、98歳でその生涯を終えるまで、現場で描くことを大切にして、自ら足を運んで見つけたものから受ける感動をその場で直接描く姿勢を持ちつづけました。こうして生まれたスケッチや素描作品は、

対象物を簡潔な線での確に捉える優れた資質、線と色彩の調和による豊かな表現力、大胆な画面構成を可能にする類まれなデザイン感覚がいかなく発揮され、味わい深いものになっています。

平成16年(2004)、ご遺族の厚意により「宮市博物館」へ多くの作品を寄贈いただきました。本展では、古都奈良を描いた作品をはじめ、日本や海外への取材旅行から生み出されたスケッチ・素描作品、油彩作品など、寄贈作品全54点を展示紹介します。(肥田木朋子)

※佐分賞 二宮ゆかりの画家佐分眞の没年に遺族の資金によって新進画家奨励のために設定された賞。昭和12年から18年まで授与されたが、戦争のために中止になった。他に青山義男・香月泰男・棟方志功・竹谷富士雄・久保守などが受賞している。



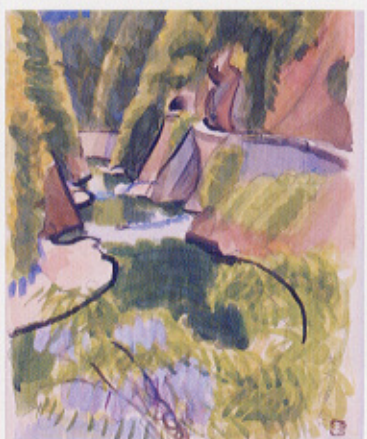
▲二重の塔



▲八宝街



▲稲妻



▲大入渓谷



▲大連



▲静物



## 資料紹介

### 牧場の女性

作者 大澤海蔵(1906—1971)

制作年 昭和13年(1938)頃

技法・材質 油彩・画布

寸法 一四五・二×九五・六cm

署名 画面右下に「K.Ozawa」

平成12年度寄贈

大澤海蔵は名古屋市中区出身。名古屋洋画壇では、大正12年(1923)に鬼頭鍋三郎・松下春雄らが中心となって美術団体「サンサシオン」を結成、新しい絵画活動を展開しようとしていた。17歳の海蔵は、その第1回展をみて感動、画家を志したのである。そして、大正13年(1924)に上京して松下春雄らと共同生活をしながら川端画学校に学び、昭和3年(1928)の第9回帝展に初入選以来官展系の展覧会を主な活動の場所とし、同9年(1934)に光風会会員となり、同13年(1938)の第2回新文展で《草はら》が特選を受賞、戦後は日展の審査員・評議員となるなど洋画界の指導的役割を担った。本作品は、前述の《草はら》と同じ場所を描いたバリエーション作品である。そこでは草原の羊だけを描いているのに対し、ここでは人物に大きくスポットをあてている。自然風景の中に人物を配した柔らかな光と影の表現は大澤の到達したひとつの画境であり、フランスの画家ボナールの作品世界を彷彿とさせる。絵の署名に「K.Ozawa」あるいは「Osawa」と記しているが、制作年を見ると、大平洋戦争後には「Osawa」に統一したようである。

(毛受英彦)



### 枇杷親子猿之図

びわにおやこざるのず

作者 浅井星洲(1788—1862)

制作年 江戸後期(19世紀)

技法・材質・形状 絹本着色軸装

寸法 本紙縦九六・三×三六・四cm

総丈縦二六五・八×四五・五cm

落款 星洲(印)

平成13年度購入

浅井星洲は通称勘兵衛正永(永正とも)、天明8年(1788)中島郡刈安賀村(宮市)に生まれ、村庄屋を務めていた。(寛政8年誕生説もある。)浅井家は江戸時代刈安賀村の頭百姓とされた家柄で、戦国期に、織田信長の家臣となり、信長没後その二男信雄の家老として刈安賀城主となった浅井新八の末裔と伝えられている。京都に出て、絵を四条派興春の門人柴田義董(しばたぎとう)に学び、のち松村景文に師事。その後長崎など各地を歴遊して広く画名を知られることとなり、尾張藩主に招かれて名古屋城対面所の天井に龍を描いたと伝えられるも残念ながら現存していない。彼の作品は特に尾張藩主に愛賞されて御留筆(おとまりびし)とされ、許可がなければ求めに応じてむやみに描くことが禁じられていた。そのためか残された作品は数少ない。本作品における親子猿の睦まじい姿態の表現、また繊細な毛並みとは対照的に枇杷の枝ぶりを力強く配置した付立て技法による表現に高度な技量を見ることが出来る。後年、生地に筆塚が建てられたが、道路開通等により現在は大和西小学校敷地に移転された。

参考文献「尾西北のかみ」「愛知画家名鑑」

(毛受英彦)



# 博物館事業報告

展 平成18年10月7日～11月5日  
企画展 **衣装から見た世界の文化**

民族衣装は、気候や文化、さらには歴史、宗教によって大きく影響を受け現在に至っています。しかし、現在では各国の交流が進み、その特色が薄れつつあるのも現実であると言えます。本展覧会では、民族衣装をとおして世界の国々の文化や歴史について紹介するとともに、ファッションショーやティーパーティー、コンサート、講演会などを通じて、より深く五感を通じて理解できたと考えています。



▲展示風景

●10月8日(日)講演会  
テーマ 「世界の衣装をたずねて」  
講師 服飾評論家 市田ひろみ氏  
●10月15日(日)講演会  
テーマ 「世界を知りたい！～食べる・暮らす・奏でる～」  
講師 総合地球環境学研究所助教授 野中健氏

○民族音楽コンサート  
(スリランカ・アフリカ・韓国・タイランド・ペルー)



▲市田ひろみ氏講演



▲岩田和夫氏講演

●10月22日(日)世界のティーパーティー  
(スリランカ・タイ・イラン)  
●10月29日(日)講演会  
テーマ 「民族衣装を訪ねる」  
講師 三星毛糸株式会社代表取締役社長 岩田和夫氏  
○民族衣装ファッションショー  
(モデル 一宮高校被服科/衣装提供 鶴見国際交流の会)  
●11月5日(日)世界のティーパーティー  
(ウクライナ・プータン・韓国)



▲民族音楽コンサート



▲世界のティーパーティー

平成18年10月21日～11月12日  
企画展 **第6回川合玉堂展**  
**玉堂—その「うた」**

一宮市木曾川町の現在玉堂記念木曾川図書館が建つ場所は、日本画家・川合玉堂の生誕地です。その図書館の展示室で毎年行う川合玉堂展の第6回目として、画賛を中心にした展覧会を開催しました。



▲民族衣装ファッションショー

うたを好んだ川合玉堂は折々にうたを詠み、それを作品に仕上げました。うたと絵が調和したこれらの作品は独自の世界観が表現され、新鮮で来場者のみなさまに楽しんでいただくことができました。



## 平成18年11月2日 市民文化財めぐり

市民の方々に、私たちの貴重な遺産である文化財を紹介することにより、文化財愛護の精神を高めていただくため、昭和42年以来毎年「市民文化財めぐり」を開催していますが、今年はその42回目です。見学コースは旧一宮市・旧尾西市・旧木曾川町のそれぞれの文化財を紹介するようにしました。真清田神社宝物館・運善寺・寿福寺・木曾川堤(サクラ)・伊富利部神社・大明神社(起の大イチョウ・起のヤマガキ)・博物館(企画展「衣装から見た世界の文化」)。当日は天候にも恵まれ、30名の参加者の方々は、講師の解説を熱心に聞き入っていました。



平成18年11月11日～26日

## 岩田哲夫水墨抽象の世界展

一宮市の美術振興に資するため、水らく一宮市文化団体協議会長の要職におられる岩田哲夫氏の作品を展示しました。これは一宮市表彰条例の美術部門で表彰された方々を顕彰するためのものでもあります。岩田氏の60年におよぶ画業の中から水墨抽象の世界を中心に展観しました。



展 平成18年12月2日～17日  
企画展 **2006一宮市現代作家美術秀選展**

博物館では、昨年引き続き、「2006一宮市現代作家美術秀選展」を開催いたしました。第64回一宮市美術展での依頼出品者の選りすぐり作品や市長賞受賞者の作品、及び一宮美術作家協会、一宮書道協会、一宮写真協会の各推薦者の作品76点を展示したものです。会場では、柔らかな光と背景に紅葉を取り入れ、落ち着いた雰囲気の中で多くの来館者の方々に鑑賞していただきました。





展 平成19年1月6日～2月25日  
企画 **くらしの道具** 〈今と昔〉

本展覧会は、平成3年度より毎年歴史を学び始める小学校3年生を対象に企画し、今回で15回目となる展示です。現在の主な対象は小学校4年生となりました。衣・食・住の資料を中心とした民俗資料展示を主軸としました。また、自然環境が異なる地域の資料と比較することにより、地域による生活道具や暮らしの違いについても紹介しました。



▲展示風景

●1月14日(日)

海のくらしを体験！  
海のくらしについて話を聞き、食を体験するとともに、平野の暮らしと比較しました。ゴンドウ汁にはスズキをさばいて入れもらい、日ごろ味わうことのできない味を体験しました。また、漁業や、日間賀島の暮らしについて学びました。



▲海の暮らしを体験

●1月28日(日)

山のくらしを体験！  
木曾川上流に暮らす人々の暮らしぶりや自然について学び、エゴマの味のするゴヘイモチやホウバで包んだホウバメシを味わいました。



▲ホウバメシを味わう

●2月4日(日)

Kids茶会  
日ごろ小学校で茶道を学んでいる、宮市立浅井中小学校6年生のみなさんにお茶会を開いてもらいました。「くらし展」に遊びに来た4年生は、緊張しながら、作法を教えてもらいお茶をいただきました。



▲Kids茶会

見学風景▶



平成19年1月17日・24日  
文化財防火訓練・防火バトロール

昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁面が焼失しました。以来この日を「文化財防火



▲防火指導

デー」と定め、防災意識高揚のために各種行事を開催し、今年には53回目に当たります。市教育委員会では消防本部とともに1月17日に文化財防火バトロール、24日に防火訓練・文化財管理者研修会を実施しました。防火訓練は真清田神社境内において市消防署員・地元消防団員・真清田神社の方々が中心となつて行なわれ、地元町内会・保育園児など多くの参加がありました。



▲防火訓練

平成19年2月4日ほか  
尾張平野を語る11  
尾張の芸能と文化

本講座ではこれまで、尾張に残る歴史や文化をテーマに講演会を開催してきました。その中で今回、はじめて尾張の芸能を取り上げ、尾張の民衆文化や伝統文化の特徴について考えてみました。

●2月4日(日)  
テーマ 「尾張の芸能と文化」  
講師 南山大学教授 安田文吉氏

●2月11日(日)  
テーマ 「尾張の祭りと民俗芸能」

講師 民俗芸能研究家 鬼頭秀明氏  
●2月18日(日)  
テーマ 「獅子芝居と説教源氏節」  
講師 佛敎大学名誉教授 関山和夫氏



▲安田文吉氏講演



▲関山和夫氏講演



▲鬼頭秀明氏講演

平成19年2月25日  
平成18年度愛知県民俗芸能大会  
一宮市大会

主催 愛知県教育委員会・宮市・宮市教育委員会  
国、県及び市町村指定の無形民俗文化財等を順次公開し、その保存・伝承を図るとともに、民俗芸能への理解と認識を深めることを目的として開催されました。一宮市からは、市指定無形文化財「鳥文楽」が出演しました。

本大会は今回48

回目で一宮市は30年ぶりに会場となりました。そこで、今回は特別司会にアドゴニー・ロロさんをお招きするとともに、県指定無形民俗文化財「ばしやう踊」のウエルカム公演や市指定有



▲ばしやう踊



形民俗文化財「石刀神社祭礼用山車」(大聖車・中屋敷車・山之小路車)のからくり人形の実演も併せて開催しました。さらに市内の芸能や祭りを紹介するパネル展示もを行いました。

上芸芸能

●市指定「鳥文楽」・宮市島村

●町指定「豊浜須佐おどり」・知多郡南知多町豊浜

●県指定「板山獅子舞」・半田市板山町

●市指定「碧南のはやしチャラボコ」・碧南市源氏神明町

●県指定「安良の棒の手」・江南市安良町



▲鳥文楽



▲板山獅子舞

博物館講座  
平成19年3月3日ほか  
土器をつくろう

小学校高学年児童とその親を対象にして3月3・4・18日に開催しました。

今回の参加者は、4組の親子のみなさんで3日、4日の2日間で土器を制作、博物館で2週間ほど乾燥させたあと、隣接する妙興寺境内で野焼きで焼き上げました。野焼きの日は、寒い日となりましたが、みんなで協力して土器を焼き上げることができました。野焼きの合間を利用して、しいのみを使ったクッキー作りや、土器を使っての炊飯を行いました。一部は焼成時に剥落したり、割れたりしましたが、みなさん満足の様子で持ち帰りました。



▲土器をつくる



▲うまく焼けたかな

## 文化財解説ボランティア養成講座

第4期の文化財解説ボランティア養成講座(前期)を開催しました。募集受講者数15名、各回別の参加者数は、第1回15名、第2回14名、第3回11名、第4回10名、第5回12名、第6回(現地学習)14名で、トータルの出席率は、84%となりました。後期の講座は、平成19年4月から開催し、より専門的な立場から、文化財保護審議会委員の方の講義を実施、継続して受講してもらおう予定で、その後、解説活動に携わっていただければと考えています。

また、本講座の修了生の活動として、博物館に隣接し愛知県指定史跡でもある妙興寺境内地を案内する活動を、特別展・企画展などを開催中の土・日曜日に実施しました。文化財解説ボランティア講座修了生の方々に協力いただき、午前中は1時からの1回、午後は1時30分と2時30分からの2回、概ね30分間ずつ、希望者に対して解説活動を行ってまいりました。



▲妙興寺勅使門前での解説

説や、妙興寺にゆかりの故事を紹介しながら境内地を散策することで、自然に触れることができることも、新たな妙興寺境内地の魅力を再発見することもあるようです。平成18年4月から11月まで実施しましたが、ボランティアの人の待機数はのべ91人、解説実施回数67回、対象者数は216人を数え、来館者の方から感謝の声が聞こえるとともに、ボランティアの人たちの知識向上と活用を図ることができたと考えています。

## 展覧会 手つむぎ・染め・織り展

平成19年3月4日～18日

織維講座生と伝承会員による、第18回作品発表会。本年度に製作した、反物・テーブルセンターなど約50点の作品を展示しました。ご観覧の方には、機織りや糸づくりの体験をしていただきました。



## 平成19年3月21日 民俗芸能公演

市内に残る民俗芸能を広く市民に知っていただくために、市指定無形文化財「鳥文楽」(昭和36年3月27日指定)と「宮後住吉踊」(平成12年6月22日指定)公演を実施しました。

演目

鳥文楽Ⅱ「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」  
宮後住吉踊Ⅱ「日高川(段物)」「すがわき」

「豊年」「おんど」



# 文化財保護事業

本年度に行なわれた文化財保護活動の一部を紹介します。

## 保存修理が行われた文化財

僧形坐像(市指定文化財・賀茂神社所蔵)

円頂黒衣の僧形像。法衣をまとい、膝上で如意を執る。室町時代。桐材、寄木造。彩色及び漆塗。像高四六cm 膝張三九cm。

過去には、昭和54年度に保存修理が行われており、その際に欠失していた左手第四、五指と亡失していた如意を新補している。また像全体に虫蝕があり、特に像の腹部から裳先にかけて顕著であり、修理としては、木屑漆で補修し、黒漆塗りを施行している。今回の修理は、平成17年4月29日から5月29日まで開催された「宮市・尾西市・木曾川町合併記念「いちのみや文化財展」」に展示するため借用した際に、像の表面や方座の表面及び如意、特に法衣の部分に著しくゼリー状の物質が付着しているのを発見したことに端を発する。原因については、保存箱に入れて像を保管していたが、箱の中に入れた大量のナフタレンが気化して影響を及ぼしたものと考えられる。

平成17年度には簡易修理としてゼリー状物質を除去した。今年度は前年度の修理により過去の修理箇所が明らかになり見苦しくなったため、古色仕上げを施した。

参考・引用  
「各修理解説書」



▲修理前



▲修理の様子



▲修理後

## 新しく登録された文化財

登録有形文化財(建造物)

木曾川資料館主屋(旧木曾川町会議事堂)

木曾川資料館収蔵室(旧木曾川町役場倉庫)

真清田神社本殿及び渡殿

昨年度に文化財登録を申請していた各三棟の建造物が平成18年8月3日付けで文化財登録原簿に登録され、文化庁よりプレートが交付された。



▲上のプレートは、木曾川資料館主屋・木曾川資料館収蔵室のもの。

## 新しく寄託された文化財

木造阿弥陀如来坐像(市指定文化財・阿弥陀寺蔵)

一宮市萩原町東宮重の浄土宗 西山派 圓光山 阿弥陀寺の本尊。寺は正徳5年(1715)に建立された。製作は鎌倉時代末期と推定。寄木造。光背や台座は後補になる。像高四六cm。膝張三四・五cm。

本来この像は、市内萩原の阿弥陀寺に安置されているが、今般、寺を改築することとなった。その間、像は博物館に寄託されることとなり、現在は博物館で公開・展示している。

阿弥陀とはサンスクリット語の「アミターユス」(限らない寿命を持つもの)と「アミター

バ」(限らない光明を持つもの)の双方を音写したものである。

像は阿弥陀の定印とされる上品上生の印相を結び、右足を上にする吉祥座で結跏趺坐する。

螺髪は細かく、彫眼で大変細い伏し目を表す。衲衣は両肩を覆う通肩の形に造り、蓮の花が散りばめられている。胸の中央には吉祥の相として「卍」が描かれている。洗練された技法の彫刻で優れた作品である。

主な参考・引用

一宮市教育委員会

二宮の文化財めぐり 増補改訂版

1999

萩原町史編纂委員会

二宮市萩原町史 1969

真鍋俊照編「日本仏教辞典」2005等



▲阿弥陀寺



## 平成19年度催し物のご案内

平成19年8月11日(土)～8月22日(水)

### 「一宮市子ども写生大会作品展」

市内幼稚園・保育園児、小・中学生参加の写生大会で、上位入賞者と各園・学校の代表作品を展示します。

平成19年9月1日(土)～9月17日(祝・月)

### 「2007一宮美術作家新展」

一宮美術作家協会会員による最新の発想でイメージの試作を展開した力作(絵画・彫塑・デザイン・工芸)を展示します。

平成19年9月20日(木)～9月30日(日)

### 「一宮写真協会展」

一宮写真協会会員の感性に裏打ちされた表現力で、熱い思いを込めた作品を展示します。

平成19年10月6日(土)～10月14日(日)

### 特別陳列「妙興寺文化財展」

博物館は妙興報恩禅寺の境内地の一角にあり、妙興寺の寺室のうち国・県・市の指定文化財は66件を数えます。平成19年は勧請開山大応国師没後700年の節目にあたり、それを記念して多様な文化財を展示します。

平成19年10月20日(土)～11月15日(木)

### 一宮市立玉堂記念木曾川図書館で開催 企画展「第7回川合玉堂展」

現在、玉堂記念木曾川図書館が建つ場所は日本画家川合玉堂(1873-1957)の生誕地です。その図書館の展示室を会場として、新収蔵作品を中心に展示します。

平成19年10月20日(土)～11月18日(日)

### 特別展「没後50年 川合玉堂名品展」

日本画家川合玉堂は、生誕地である木曾川町外割田に8歳まですごし、その後岐阜・京都・東京へと転居、多摩川上流の青梅市御岳が終の住まいとなりました。今年は没後50年を迎えます。これを記念して青梅市の玉堂美術館所蔵作品など名品を展覧します。

平成19年12月1日(土)～12月16日(日)

### 企画展「2007一宮市現代作家美術秀選展」

第65回一宮市美術展の成果等を受けて、一宮市美術展依頼出品者・市長賞受賞者、一宮美術作家協会・一宮書道協会・一宮写真協会推薦者の選りすぐりの作品を展示します。

平成20年1月5日(土)～2月24日(日)

### 企画展「くらしの道具～今と昔～」

衣・食・住の資料を中心とした民俗資料展示です。道具の材質や形態の時代的变化や、自然環境が異なる地域の資料との比較によって、地域による生活道具や暮らしの違いについても紹介します。

平成20年3月2日(日)～3月16日(日)

### 作品展「手つむぎ・染め・織り展」

織維講座の受講生と卒業生(伝承会員)による、19回目の作品発表会。手つむぎ・草木染・機織りなど多くの工程を経て製作された木綿の作品を展示。

## 講座のご案内

平成19年5月～平成20年2月

### 古文書講座

本講座は、当館で保管している江戸時代の古文書をテキストとして使用し、古文書の読解力を養うと共に、その歴史的背景を学ぶ目的で開催しています。5月から2月まで毎月1回、合計10回の講座を開き、3年で修了としています。



平成20年2月の各日曜日、3月2日

### 尾張平野を語る12 ～焼き物からみた尾張～

本講座では、歴史のみならず自然環境や民俗文化など、幅広い分野から講師を招いて講演会を行い、濃尾平野、特に尾張平野について考えてきました。

今回は、焼き物を通史的にとらえ、尾張の伝統文化に与えた影響やその歴史的特徴について5回連続で考察します。主な内容としては、「茶道具と焼き物」「中世の焼き物」など実用品としての焼き物の話から、明治時代以降の「見る焼き物への変化」を捉えるとともに、実際に作陶することによって焼き物を身近に感じてみたいと思います。

一宮市  
博物館  
だより

第40号

発行日 平成19年3月31日  
編集・発行 一宮市博物館  
制作 光村印刷株式会社

### 利用のご案内

名鉄名古屋本線「妙興寺」駅南口下車徒歩7分  
〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺 2390  
TEL. 0586-46-3215 FAX. 0586-46-3216

《観覧料》(常設展・聴講料含む、特別展の場合は別途定める。)  
一般=200円(160円) 高・大生=100円(80円)  
小・中生=50円(40円) ※ ( )内は20名以上の団体料金。

《休館日》毎週月曜日、休日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)

《開館時間》午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

※一宮市内の小中学生及び身体障害者等の手帳を持参の市内の方(付添人1人を含む)は無料。(ただし特別展開催期間中は除く)

※一宮市発行の「シルバー優待証カード」持参の方は無料。

《HP》<http://www.icm-jp.com>

